

2014年度自己点検・評価報告書(シート)

【目標の進捗状況(達成度)評価・報告】(最終年度)

《大学》

担当(記述)部局は、 ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本報告書(シート)の自己点検・評価項目・要素と担当部局は次のとおりである。

対象部局	経営戦略研究科・経営戦略専攻
大項目	6 国際関係
中項目	
小項目	6.0.1 国際交流(国内外における教育研究交流)についての方針を明示しているか。
要素	(KG1) 国際化への対応と国際交流の推進に関する基本方針の適切性
小項目	6.0.2 国際交流(国内外における教育研究交流)を適切に行っているか。
要素	(KG1) 国際レベルでの教育研究交流を緊密化させるための措置の適切性 (KG2) 国内外の大学院間の組織的な教育研究交流の状況

II. 目標の進捗状況(達成度)評価と報告【2014.4.30現在】

《進捗状況(達成度)評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況(達成度)の自己評価を行っている。進捗状況(達成度)評価は、目標の2014年4月30日現在における進捗状況(達成度)の評価(2013年度1年間の活動評価ではなく、2014年4月30日現在で目標がどこまで進んだかの評価)であり、A、B、C、Dの4段階で行ったものである。A、B、C、D評価の基準は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
 B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
 C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
 D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗状況(達成度)評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. Have more exchanges with overseas MBA schools for Corporate Strategic Management Course. 企業経営戦略コースにおける海外のMBA校との交流の強化	→Co-develop the curriculum with affiliated schools and exchange one or two instructors who are in charge of this. 提携校とのカリキュラムの共同開発及びそれを担当する教員の相互派遣(1-2名程度)	B	C	C	C	C
2. To increase awareness and global exposure of IMC program. (IMCの世界的な認知度の向上。)	→Advertisement of IMC program in suitable media and/or participation in international higher education fair. (適切なメディアでのIMCのPR、または国際高等教育フェアへの参加など。)	B	B	B	B	B
3. To strengthen networking between IMC faculty and foreign scholars. (IMC教員と海外の研究者とのネットワーク強化。)	→MOU with universities abroad, inbound of foreign scholars, exchange students and dissemination of faculty research in international journals and conferences. (海外の大学との提携、海外研究者の招致、交換留学生の呼び込み、国際的な雑誌や学会での教員による研究発表。)	B	A	A	A	A
4. Establish hybrid courses in which the working students can complete MBA program both in English and Japanese. 社会人が英語と日本語でMBA課程を修了できるハイブリッドコースの設置	→Establishing the hybrid courses. ハイブリッドコースの設置状況	C	B	B	B	B

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	2009	2010	2011	2012	2013
	→					
	→					

《進捗状況(達成度)報告》 担当(記述)部局は「指標」に基づいた報告をしてください。

上記で自己評価した目標の進捗状況(達成度)について、次のとおり説明・報告する。

目標1	C	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 海外のビジネススクールと提携しているものの、カリキュラムの共同開発や教員の相互派遣は行っていない。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 具体的な結果が出ていない。そもそもの目標が現実に即したものであったかを見直す必要がある。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 研究科開設時に提携した協定を一つずつ精査し、現実に即した国際交流推進について検討する。	☆
		その他	
			☆
目標2	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 国際連携機構を通じて、留学フェアや高等教育国際カンファレンスでのプロモーションを実施したほか、英語によるプロモーションビデオを製作し、YouTubeで配信を行った。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 海外からの受験に関する問い合わせが増えてきており、認知度は少しずつ向上していると考えられる。より効果的な広報方法を探ることが今後の課題である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か これまでの国際連携機構を通じた広報を継続するとともに、MBAツアーに参加し、海外(アジア等)で直接的な広報を行うほか、英語のウェブサイトの内容をアップデートする。また、より効果的な広報方法を調査する。	☆
		その他	☆
			☆
目標3	A	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか 学内の海外客員教員招聘枠を積極的に利用している。 また、文部科学省による補助を受けた青山学院大学ビジネススクールと南山大学ビジネススクールとの「戦略的大学連携支援プログラム」を通じて、海外のビジネススクール訪問調査、教員招聘、シンポジウム、等を行った。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 海外からの客員教員による授業を毎年開講している。また、「戦略的大学連携支援プログラム」を通じて海外ビジネススクールとのつながりができた。このつながりを今後の研究科の国際化に有機的に活かすことが今後の課題である。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か これまでの海外大学院との連携協定、また、これまでに培った海外ビジネススクールとのつながり、大学間協定といったリソースをあらためて精査し、どのようなネットワーク強化が可能なのか、あらたな模索・取り組みを始める。	☆
		その他	☆
			☆

目標4	B	Do: 目標を達成するために、目標を設定した年度以降、どのようなことを、誰が、どのようにして、どれだけ取り組んできたか ハイブリッド科目を開設し、3科目まで増やした。	☆
		Check: 結果はどうであったか。良かった点・効果が上がった点は何か。課題・改善点は何か 企業経営戦略コースの履修者が少なかったため、履修者と開講科目数を増やすことを目指す。	☆
		Action: 今後どうするのか。伸長策、改善策は何か 入学時のオリエンテーションや学生の手引きなどで、周知を図る。また、既存の国際経営コース科目を企業経営戦略コース科目と合併させることによってハイブリッド科目を増やす。	☆
		その他	☆
			☆
備考			☆

《評価指標データ》

(特定項目データ)本項目は数量的なデータによる評価(現状分析)が可能のため、次のとおり指標を定め経年比較している。

【経営戦略研究科】			単位	2009	2010	2011	2012	2013	2014	備考	
指標1	国際交流協定締結機関数		機関	6	6	7	6	6	5	・5/1現在	
指標2	国際交流協定締結国数		国	5	5	5	4	4	4	・5/1現在	
指標3	海外からの受け入れ学生数	国 数	国	—	—	—	—	—	—	・累計数	
		外国人留学生	正規	人	21	33	30	30	33	31	・※5/1現在(学校基本調査) ・正規とは学位取得目的 ・特別学生を含む
			交換	人	—	—	—	—	—	—	・累計数 ・交換は正規以外とする。 ・大学院短期留学を含む
		外国人留学生在籍学生比率	正規	%	6.0	8.9	8.5	10.1	13.5	13.0	・外国人留学生÷在籍学生数
			交換	%	—	—	—	—	—	—	
その他 (セミナー等による受け入れ)	人	—	—	—	—	—	—	—			
指標4	海外への派遣学生数	国 数	国	—	—	—	—	—	—	・累計数	
		人 数	長期	人	0	0	3	0	0	0	・累計数 ・1学期以上を「長期」
			短期	人	0	1	0	0	0	0	・累計数 ・1学期未満を「短期」
		在籍学生比率	長期	%	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	・海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
短期	%		0.0	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0			
指標5	海外からの受け入れ教員数	長期	人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	2	1	0	3	4	4	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標6	海外への派遣教員数	長期	人	0	0	1	1	1	1	・累計数 ・1年間以上を「長期」	
		短期	人	24	27	24	25	29	29	・累計数 ・1年間未満を「短期」	
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数		人	0	0	0	0	0	0	・累計数 ・春・秋の合計	

※指標3「海外からの学生の受け入れ」の「外国人留学生」(正規)は2009年度までは1年間の累計数。2010年度以降は当該年度5月1日現在の数字。(学校基本調査に合わせた。)